

二〇二〇番

天あまの川がは 夜舟よふねを漕こぎて 明けぬとも 逢あはむと思おも
ふ夜よ 袖交そでかへずあらむ

二〇二二番

遠妻とほつまと 手枕交たまくらかへて 寝ねたる夜よは 鶏とりがねな鳴なき
明けば明けぬとも

二〇二三番

相見あひみらく 飽あき足だらねども いなのめの 明あけさ
りにけり 舟出ふなでせむ妻つま